



## 創立50周年を迎えて

学校長

八木 勇蔵

平成2年にわが兵庫県立芦屋高等学校は創立50周年という記念すべき節目の年を迎えた。まことに慶祝のいたりである。

本校の創立の年は太平洋戦争勃発の前年であり、開校後まもなく二度の戦災に遭遇し、先輩諸氏の筆舌につくしがたい労苦があった。戦争が終わった後も校地、校舎の整備等事の多い年月を重ねたが、むしろこの頃は校内に活気があふれ、勉学、スポーツ共に充実した。本校50年の歴史の前半、比較的短期間のうちに本校は飛躍的な発展をなし、文武両道の名門「芦高」としてその名を全国に知られるようになった。誠に意気盛んな時代であった。

しかし伝統の名門校として見られるようになってからも、学校の内から、又外からの困難な問題をかかえ苦悩の連続であった。この中で歴代校長をはじめ、教職員、生徒、同窓生、PTA 会員等あらゆる関係者のたゆまぬ努力により、伝統の名門「芦高」の名声は辛うじて保持しつづけている。

創立50周年を迎えた今、現在の芦高に関係する我々は、創立当初からのあの活力を取りもどし、困難にも負けぬ根性を身につけ、われらが「芦高」を更に発展させなければならない。

本校と同じ年に生まれた芦屋市も市制50周年の記念事業をいろいろと実施しておられるが、本校においても、この「芦高五十年史」の刊行をはじめ、50周年記念式典、記念行事、記念祝賀会、同窓会館建設等々の記念事業を実施し、先輩諸氏の業績をしのび、現在あるを喜び、来たるべき次の50年の飛躍発展を期するところである。

この「五十年史」を編纂するにあたり、今までに刊行された「十五年史」、「二十年史」、「二十五年史」、「三十年史」、「四十年史」の五回の年史、「芦高新聞」、「芦笛」、「あしかび」等の各号、各運動部、文化部等の年史、追悼集等から多くの引用をさせていただき、大いに参考とさせていただいた。この「五十年史」を編纂するにあたってこれら史料に負うところ深大であり、これらの年史等に関係された先輩諸氏に格別の感謝を捧げたい。

私たちは創立50周年の記念すべき年に際し、種々の記念事業に参加できることを無上の喜びと考えており、「自治・自由・創造」の精神のもとに、本校の教育・伝統を支えてくださった関係各位に深甚な感謝と敬意を捧げるとともに、本校が更に大きく発展することを祈念してやまないものである。

(歴代校長の温顔を拝しながら、校長室にて)